

TANGO

丹後普及センターだより

発行 平成18年2月

〒627-8570

京都府京丹後市峰山町丹波855

京都府峰山総合庁舎内

京都府丹後農業改良普及センター

電話 0772-62-4308

FAX 0772-62-5894

<http://www.pref.kyoto.jp/fukyu/tango-f/>

第4号



台風災害乗り越え、 「ストック」の出荷順調!!



宮津市特産の切り花「ストック」は、一昨年の台風23号により甚大な被害を受け、特に上宮津地区では大手川の氾濫により土砂が流入・堆積し、全く出荷できなくなったハウスが多くありました。

生産者の一人、直田秀翁さんは2棟あるハウス内に20cmを越えるドロが流入し、全滅の被害を受けました。直田さんは「台風でこれまでの苦労が水の泡になり、大変残念だった。今回は心機一転頑張ったかいもあって生育は順調」と、笑顔でストックを収穫されていました。

災害から立ち直り、また新たなメンバーも部会に加わって、今後楽しみな「ストック」です。

～守りましょう！ 農薬の適正使用で、あなたの農業！～

17年産米を振り返って



◆平成17年産水稻の概要

生育の特徴	要因
①稈長が長く、葉色がさめなかった	5月(田植え時期)の低温による、肥料の遅効き 中干し不足
②分げつ・籾数が多い	多分げつにより、穂数が多くなった 中干し不足、肥料の遅効き
③早くから倒伏した	稈長が長い 多分げつによる茎の細さ

品質の特徴	要因
①未熟粒が多い	<ul style="list-style-type: none"> 籾数過多、倒伏、登熟期後半の乾燥や早期落水による籾の肥大不足 格落ち理由(JA調べ)青未熟を除く未熟粒:37.3%、乳心白粒:21.9%
②カメムシの被害粒が多い	<ul style="list-style-type: none"> カメムシの発生多い 格落ち理由(JA調べ)カメムシ被害粒:23.4%

◆平成18年産に向けて

①中干しの徹底、早期落水防止など適期管理の実施

平成17年産は、中干し不足、分げつ・籾数過多、倒伏や早期落水等が、籾の肥大不足につながりました。もう一度基本管理を見直し、品質の良い丹後米生産に努めましょう。

②乳心白粒防止対策の継続

今年も登熟期の気温(夜温)は高く、乳心白が発生しました。地域で取り組み可能なKOS-180技術(緩効性肥料の利用、遅植え、疎植の実施)を継続して行き、乳心白粒を防止しましょう。

③カメムシ防除の徹底

カメムシ被害も多く見られました。出穂前2回(出穂3週間前と直前)セットの草刈りの実施や、仕上げ防除を適期に行い、カメムシ被害を低減させましょう。



丹後国営の茶 22ヘクタールに

国営開発農地に
茶が植栽されてから2年になります。

1年目の生育は緩慢でしたが、2年目
は見ちがえるばかりの生育を示しました。

現在の栽培面積は和東町から入植され
た(農)百姓王国による10ヘクタールのみ
ですが、今年は地元丹後からの参入分を

含めると22ヘクタールに拡大する見込みです。

今春、茶を植える人は京丹後市在住者で6組あり、「茶の
匠塾」で学びながら市内大宮町、弥栄町、網野町、久美浜
町の各団地で着々と準備を進めています。



ハウスの土づくり

◆「京都府土づくりコンクール」入賞◆

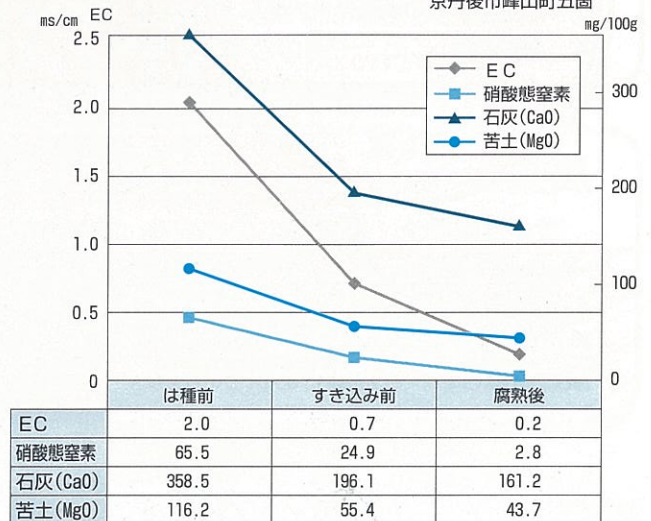
昨年11月に丹後ブロック代表として丹後町施設園芸生産組合がコンクールに参加し、産地の取り組みが評価され、京都府農業協同組合中央会長賞を受賞しました。

このコンクールに向け、丹後地域の応募5集団の土壌分析を行ったところ、ECやpH、保肥力（CEC）はおおむね適正範囲でこれまでの土づくりの成果がうかがえましたが、りん酸、石灰、苦土、加里などが適正範囲を上回る傾向にありました。ハウスでの周年作により、作物が使い切れない肥料分が残っていることが原因と考えられます。



ギニアグラスのすき込み作業

みず菜連作ハウスにおけるギニアグラス作付による化学性の変化
京丹後市峰山町五箇



◆緑肥作物導入による土壌改善◆

緑肥作物（特にギニアグラス）を、草丈120～140cmまで生育させてから、すき込み・腐熟させることで良質な堆肥（緑肥）となり、有機物投入効果が狙えます。また、すき込まずに持ち出すことで塩類除去効果が得られます。

特に、可給態りん酸、加里はいったんギニアグラスに吸収され、すき込み・腐熟後徐々に溶出するため、りん酸及び加里過剰の場合は、すき込まず持ち出す方がよい結果となります。

直売所セミナー

「農産物の販売戦略について」

12月13日、アグリセンター大宮において「丹後エコファーマー等担い手研修会」を開催しました。

当日は、農産物直売について多くの著書があり、コンサルタントとして活躍されている青木隆夫氏を講師に迎え「農産物直売所成功の秘訣」と題して、直売を取り巻く状況から直売所成功の秘訣までを、全国各地の事例を交えながらわかりやすく話していただきました。

その後、普及センターから、管内の直売所の現状と課題について報告を行いました。

丹後地域はあいにくの大雪に見舞われ、参加者は50人と少なかったものの熱心に話を聞いておられました。

研修会で得られたノウハウを直売所経営に生かされることが期待されます。



新しい農業士さん よろしくお願ひします。

■女性農業士：松本 廣美さん（京丹後市網野町）

松本さんはこれまでに食生活改善推進員や消費生活学習グループ員として活動されており、幅広い視野をお持ちの方です。農業士として、一層のご活躍を期待しています。

農業士さん ごくろうさまでした。

■女性農業士：梅田とよみさん（京丹後市網野町）

長年に渡り女性農業士として活躍された梅田さんが退任されました。地域リーダーとして重要な役割を担われ、農村女性の地位向上等に多大な貢献を成されました。今後とも、健康に留意され、ご活躍をお祈りします。

平成17年度普及活動 報告会のお知らせ

日時 平成18年3月8日(水)
午後1時から

場所 丹後農業研究所講堂
(京丹後市弥栄町黒部)

報告 みず菜の品質向上、ほか7課題発表
農家のみなさんからのご意見やご要望をお持ちしています。

平成17年度京都府農山漁村伝承技能登録・認定者

11名の方が新たに登録されました。

氏名	登録技能名	市町村名
なかむら 悦子 <small>なかもら えつこ</small>	漬け物加工(奈良漬・福神漬)	京丹後市峰山町
だいどう 由子 <small>だいでう よしこ</small>	漬け物加工(なすのからし漬)	京丹後市大宮町
まつお 庸介 <small>まつお ようすけ</small>	小型定置網漁法	京丹後市網野町
かわと 利夫 <small>かわと としお</small>	スギとケヤキの混交育林	京丹後市丹後町
あした 行雄 <small>あした ゆきお</small>	古代稲の栽培	京丹後市弥栄町
たなべ 榮志 <small>たなべ えいし</small>	肉用牛繁殖(和牛改良)	京丹後市弥栄町

氏名	登録技能名	市町村名
ふじわら 幸代 <small>ふじわら さちよ</small>	コンニャク加工	京丹後市弥栄町
やすだ 芳乃 <small>やすだ よしの</small>	漬け物加工(ガラシ漬・わさび漬)	京丹後市弥栄町
とよしま 聡 <small>とよしま さとし</small>	クルマエビ養殖	京丹後市久美浜町
いずみ 一夫 <small>いずみ かずつぐ</small>	水視漁法	与謝郡伊根町
かやま 幸生 <small>かやま ゆきお</small>	古代稲の栽培	与謝郡野田川町

「いただきます。地元産」プランで 食育を推進



◆普及センターでは「いただきます。地元産」プラン推進事業により、5つの小中学校と、2地域で子ども達を対象に食育活動を実施しました。

京丹後市立大宮第一小学校では、5年生にナシ園や加工用ダイコンのほ場を見学してもらい、学校給食研究報告会で公開授業のゲストティーチャーも担当しました。



◆宮津市では4校で野菜づくりの授業や実習を指導。子ども達と一しょに取れた野菜の給食もいただきました。

野田川町では、田植え・稲刈り祭り、加悦町ではみず菜の収穫体験で子ども達に食べ物の大切さを実感してもらいました。